

関川(光星高)準V W杯出場確実に

ボルダー・ジャパン杯

スポーツクライミングのボルダー・ジャパンカップ(JC)最終日は2日、東京都世田谷区で男女の準決勝と決勝を行った。女子は関川愛音(八学光星高)が準優勝し、2年ぶり2回目の表彰台に上った。野中生萌(無所属)は6大会ぶり2回目の頂点。男子は安楽宙斗(JSOL)が最年少での初優勝を果たした。

4月に始まるワールドカップ(W杯)シリーズの派遣選手選考を占う重要な大会だった。

日本は昨年まで世界ランキング上位者に他に男女それぞれ6人派遣できたが、今年から男女各6人のみに。これに伴って選考基準も変更された。

女子は野中がパリ五輪出場者として既に内定。関川は二つ目の基準である世界ランク10位以内を満たしていなかったが、JCで野中に次ぐ成績を取めたことでW杯前半戦(第1〜3戦)の出場を確実にした。

ボルダーW杯の第1戦は4月19〜21日に中国、第2戦は5月16〜18日にブラジル、第3戦は同23〜25日に米国で開催される予定。

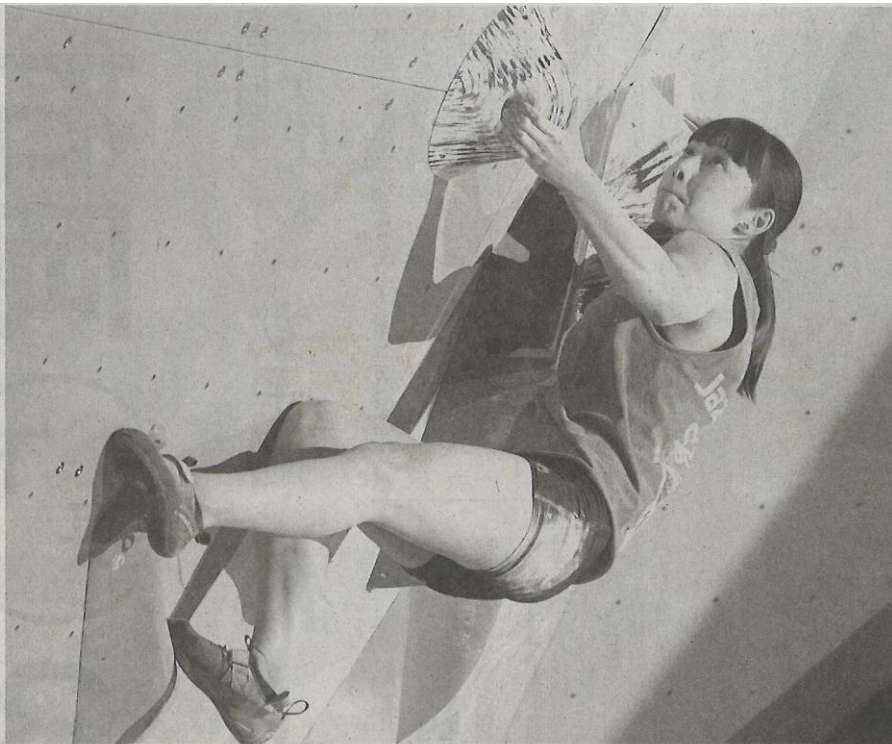
【男子】

▽決勝 ①安楽宙斗(JSOL) 84・0点 ②藤脇(大阪府連盟) 69・1点 ③杉本(北海道連盟) 59・9点 ④杉本(近畿大工業高専門学校) ⑤橋崎(無所属) ⑥山口(大阪府連盟)

【女子】

▽決勝 ①野中生萌(無所属) 84・8点 ②関川愛音(八学光星高) 84・6点 ③中村(日新火災) 84・5点 ④伊藤(デンソー岩手) ⑤葛生(栃木県連盟) ⑥村越(茨城県連盟)

示した実力と勝負強さを強豪ぞろいも臆せず



【女子決勝】第3課題を一撃で仕留める関川愛音(八学光星高)

|| 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

ハイライト

初出場でプレッシャーのなかった2年前とは違う、トップアスリートとしての勝負強さを見せつけた。関川愛音(八学光星高)はボルダー・ジャパンカップで準優勝。「実力ではなく、気持ちで負けるのはもったいない」と自らに言い聞かせ、ひしめく強豪の中で自分を見失わずに、しっかりと実力を示した。

準決勝を6位で通過し、決勝3番目で登場した関川は、第1課題を難なくクリア。だが、第2課題でつまづいた。水平方向に足場のみで移動し、その先のホールド(突起物)に飛び付く課題。「足を踏み換えるべきなのに、気付くのが遅かった」。ポイントが

入るゾーン(中間点)にも到達できないまま、残り時間は1分を切った。無得点に終わった予選の第4課題が頭をよぎった。「決勝で0点はまずい。死ぬ気で取ろう」。残り約10秒で何とかゾーンのホールドをつかんだ。気持ちを切り替えることも忘れなかった。第3課題は一撃で完登。優勝した野中生萌ら上位陣が攻めあぐねた第4課題も2回目でゴールに到達した。

「ワールドカップ(W杯)出場は決めたけれど、優勝できなくて悔しい」と関川。ぎりぎりで決勝に進んで涙を流した、2年前のあのけない面影はどこにもなかった。

たくましさを増した少女が次に挑むのは世界の大舞台。「気持ちも技術ももっと磨かないと」。これまで一度も進出したことがないW杯の決勝に向けて闘志を燃やした。

(桑田友人)